

Vol.2
お祭り列島
見歩き

元三大師を供養する (3月3、4日)
深大寺のだるま市



絵と文
溝ロイタル

だるま市は元三大師大祭の日に合わせて開かれます

後ろにあるのは少し高価なもの。目くしは目の金箔がはがれないように



店によって顔がビシビシに違います

買ってもらったピンクのだるま

ゆっくり選べたければ午前中がおすすめ。午後は身重けができないくらいに混雑します

梅が見ごろの武蔵野の、蕎麦がおいしい古刹にて境内一面真っ赤に染めて縁起だるまが並びます

いろいろなだるまがありました



キューリーツな「シゲだるま」
知らないうちに伸びていたらいやだなあ



「おたふく顔のだるま」
目は入れられないが福が来そうな気がする

値段交渉中
縁起物なので、あまり値切りすぎるのも考えものだ

相場は高さ10cmあたり1000円くらい

だるまの後ろに祈願の文字を書き入れてくれます

家内安全
商売繁盛
身体健全
などなど



埼玉県 岩槻市のだるま屋さんのお母さん



まねきねこにまぎれて「まねきねこだるま」
人気店のは初日に売り切れてしまう。かくれた人気商品

だるまで真っ赤に埋めつくされる境内

東京都調布市、深大寺のだるま市にやってきた。

調布市と言えば「ゲゲゲの鬼太郎」だ。作者の水木しげる大先生が在住ということで、鬼太郎を大々的にフィーチャーした町興しが展開されている。駅前商店街には鬼太郎や仲間の妖怪たちの像が置かれ、バスのボディにはサッカー

ボールを蹴る鬼太郎が描かれている。「鬼太郎も応援しています ガンバレFC東京」。かづくの合わせ技だ。

ここ深大寺の参道入り口にも「鬼太郎茶屋」というお店がありいつも繁盛しているのだが、この日ばかりは「だるま」に主役の座を奪われていた。もっともこの主役は鬼太郎ではないけれど。

屋台の「やきそば」のソースがジュワ〜と焦げる香りに後ろ髪を引かれたり、七味売りの口上に思わず足を止めて聞き入ったりしながら参道を抜け、山門をくぐると目の前に広がる赤、赤、赤。境内一面だるまで真っ赤。手のひらに乗るくらいの小さなものから1m超えの大きなものまで様々。店を出している

のは主に群馬県の高崎市、埼玉県の岩槻市、東京都の瑞穂町などのだるま屋さん。300以上店はあるだろうか。毎年同じ場所に同じ店が出ているので、買う方も分りやすい。「親の代から同じ店で買ってます」なんていう人も少なくない。

赤いだるまに混じって最近では風水だるまと称するカラフルなだるまがあり、

これがけっこう若者に人気だ。青が仕事運、緑が健康運、ピンクが恋愛運などとなっている。ボクはオッサンなので、だるまはやっぱり赤くないと頼りない。というか、どうも願い事が成就する気がしない。大きく「阪神」とだけ書かれた大きな黄色いだるまもあったが、個人的にこれは許す。

だるまを買ったら次は目入れだ。本堂の横を少し登ったところに元三大師堂があり、その前に特設の「開眼所」が設けられていて、長い行列ができています。ここで深大寺の僧侶が直々に目を入れてくれるのだが、それが実に独特で、片目を黒く塗る代わりに梵字の「阿」という文字を書き入れる。その際、お堂に

開眼所

買ったるまは、ここで目を入れてもらえる

だるまに念を込めています



無理のない程度に念を

左目(向って右)に梵字の「阿」を入れる。これは深大寺独特



1年後、願いが叶えば右目に梵字の「吽」を入れてお寺に納める

角大師(つないし)

元三大師の変化した姿だという角大師の石仏。鬼の骸骨みたい



大師堂前のキンモクセイの木の下にあります



外からくる災いを退けるという角大師のお札

25年に一度しか御開帳しない秘仏が安置された元三大師堂



お練り行列

両日とも午後2時から雅楽衆や袴姿の講中、絢爛豪華な袈裟に身を包んだ高僧らが練り歩きます



合掌しています

行列はだるま市で見慣れた境内を通過して元三大師堂へ向いそこで大法要が営まれます



先頭の雅楽衆

笙(しょう)

調布馬車-深大寺間を臨時バスが走っていました



手づくりのだるまプレートが



祭られている元三大師の魂をだるまに込めるのだそう。元三大師は良源という天台宗の偉いお坊さんのことで、カリスマ的な霊能者でもあったという。一年後に願い事が叶うと、もう片方の目に「吽」の字を入れて奉納する。物事の始まりと終わりを表す「阿吽」。こうした儀式を経ると、なんだか本当に願い事が叶うんじゃないかという気にもなってくる。

あの黄色い「阪神だるま」に霊力を込めれば、ひょっとしたら……、なんて妄想したりして。

深大寺で、もうひとつ忘れてはいけないのが「そば」だ。境内周辺には20軒ほどの「深大寺そば」の店がある。観光地価格なのは否めないが、せっかく来たのだからと、そのうちの1軒に入る。

3月と言えど寒かったので、温かい

「なめこそば」を注文した。テーブルの上には買ったばかりの小さなだるま。この小さいだるまに極々小さい願をかけてみた。叶うとちょっと嬉しいくらい小さな願い事。来年、このだるまに「吽」の字を入れることができたらいいなあ……。もし、目を入れることができなければ、その時は「鬼太郎茶屋」に行って、目玉オヤジに頼んでみるか。(終)

【深大寺だるま市】

東京都調布市深大寺で毎年3月3、4日に行われる日本三大だるま市のひとつ。東京に春を呼ぶ催しとして親しまれている。沿道に並んだ縁起だるま店の威勢の良い売り口上と訪れる大勢の参拝客で、境内は両日活気溢れる賑わいを見せる。

深大寺ホームページ
<http://www.jindaiji.or.jp/>
 調布市観光協会ホームページ
<http://www.csa.gr.jp/daruma2010.html>

【深大寺へのアクセス】

●新宿駅から京王線で調布駅、もしくはつつじヶ丘駅下車。「深大寺」行きバスで約15分。JR中央本線で三鷹駅下車、深大寺「行き」バスで約25分。

●クルマで新宿方面から国道20号線を下り、下布田交差点を右折、三鷹通りを直進し深大寺小前交差点を右折して約500m。

